

編 集 後 記

まず今野淳会長の絶大なご尽力によつて、第56回総会が盛会裡に終了しましたことはご同慶の至りであります。

さて、本号は、工藤氏の総説“抗酸菌塗抹陽性培養陰性”，北澤氏の“中小企業における肺結核の発生”，国療非定型抗酸菌症共同研究班による“*Mycobacterium avium-Mycobacterium intracellulare* Complex による一過性感染症”，さらに中島氏他の“頸部結核性リンパ節炎の外科”の3つの原著と、増田氏の症例報告を掲載してあります。工藤氏の塗抹陽性培養陰性の問題は、短期強化療法の叫ばれる今日、臨床上極めて重要な問題であり、多くの臨床家にとつて裨益するところが大きい総説と思います。一般の臨床家から関連の質問をうけた場合の好個の論文と考える次第で心からお礼申し上げます。北澤氏の疫学調査は、企業における検診功罪についても検討され、結核検診廃止を述べておられる。あるいは異論をお持ちの方もおられると思います。国療共同研究班の *Mycobacterium avium* Complex の一過性感染症の論文は、1973年桜井氏の報告以来問題となつてきた本症に対する共同研究班の解答ともいふべきものでありますが、発症機序などからもかなり興味のもたれる問題であろうかと思ひます。一方では今回の総会の要望課題“日和見感染症としての結核”も多くの議論を呼びましたが、抗酸菌の今日的意義は尽きるところがないといつては過言でしょうか。

中島氏他の頸部リンパ節の外科の論文は、今日でもしばしば外科的処置を必要とするリンパ節結核患者の症例を経験するわれわれにとつて、非常に示唆に富む論文といえるかと存じます。また増田氏他の症例報告は、同じくリンパ節結核のものでありますが、縦隔腫瘍との鑑別におけるCTの有用性を示したものとして新鮮味を感じます。

以上のように本号は今日の日本の多くの臨床家にとつてかなり裨益するところの大きな内容をもつていると思ひますし、今後益々このような論文のご投稿が増えることを願つている次第です。

巻頭に故戸田忠雄先生のご遺影ならびに御略歴を掲載させていただきましたが、先生の本学会への大きなご貢献にたいしまして深甚の感謝を捧げますとともに、謹んで追悼申し上げます。

(岡安大仁)

訂 正

○本誌 Vol. 56, No. 3 に掲載されております「結核症の基礎知識」中で誤りがありましたから、下記のとおり訂正し、謹んでお詫び申し上げます。

「結核症の基礎知識」正 誤 表

ページ	欄	行	誤	正
87	左	上から3～4	<i>Mycobacteria</i>	(genus <i>Mycobacterium</i>)
"	左	上から4	slow growers	slow growers
"	左	上から11	slow growers	slow growers
88	表1の4	上から6	<i>M. farcinogenes</i>	<i>M. farcinogenes</i>
98	右	上から8	0.3～0.4gを1回	0.3～0.4gを毎日分2または1回
99	表4の3	上から2	1日 0.3～0.4g 経口、 毎日1回	1日 0.3～0.4g 経口、毎日 分2または1回
"	表4の3	上から16～17	1日1.0g 週3日、筋注 (最初3カ月毎日、その後 週3日)	最初3カ月1日1g 毎日筋 注、その後1日1g 週2日
106	左	下から5～4	発育迅速菌	発育の速い菌